

2014年に利尻島で採集したコメツキムシ類の記録

大平仁夫¹⁾・吉田正隆²⁾・佐藤雅彦³⁾

¹⁾ 〒444-3511 愛知県岡崎市舞木町狐山6-4, 1-106

²⁾ 〒770-0047 徳島県徳島市名東町1, 295-1

³⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町136 利尻町立博物館

Some Elaterid-beetles Collected from Rishiri Island in Hokkaido Prefecture in 2014

Hitoo ÔHIRA¹⁾, Masataka YOSHIDA²⁾ and Masahiko SATÔ³⁾

¹⁾ 1-106, 6-4, Kitsuneyama, Maigi-cho, Okazaki-shi, Aichi, 444-3511 Japan

²⁾ 295-1, 1, Myôdô-chô, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0047 Japan

³⁾ Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Rishiri Island is located off the northwest coast of Hokkaido. In June 2014, Yoshida M. and Satô M. found 15 species of elaterid beetles at elevations of 50 to 250 m on Mt. Rishiri (1,721 m). As a result of this study, 15 species were found, of which five are new to the fauna of this island, as follows: *Corymbitodes gratus*, *Ampedus optabilis kusuii*, *Fleutiauxellus ishidai*, *Paracardiophorus pullatus yasudai* and *Platynychus nothus*.

筆者である吉田と佐藤は、2014年6月に利尻島の利尻山麓とその周辺地域で甲虫類の分布調査を行った。この調査で見出されたコメツキムシ類を主として大平が同定した結果、15種のうち利尻島から未記録と思われる5種と、分布や生態などについての若干の知見も得られたので、ここに併せて記録した。この報告が、今後この地域の本科の種の分布や生態の充実に多少でも役立てば幸いである。なお、ここに記録した種はすべて2014年の採集であるので、本文中の箇々の種の採集年の記入は省略した。また、ここに記録した採集資料は、一部を除いて利尻町立博物館に保管予定である。

本文を草するにあたり、内容について種々指導をいただいた名古屋大学大学院の大場裕一博士に心から御礼を申しあげる。また、この調査は環境省北海道地方事務所より特別地域の調査用トラップの設置

の許可と、北海道森林管理局宗谷森林管理署より国有林の入林許可を頂いて行った。その他、本文や図版や編集については桜木大介氏（徳島市）や西川勝氏（徳島県藍住町）の支援を頂いた。併せて心から感謝の意を表する。

種の記録

1. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861)

サビキコリ

北海道から九州の各地の山林や畑地に広く分布する種である。利尻島周辺の離島では、奥尻島、天売島、焼尻島から知られているが、利尻島からの記録はこれが最初と思われる。幼虫は畑地や牧草地などの土壌中に生息しており、主として捕食性である。本種の分布は土壌や植物の根株などとともに人為的

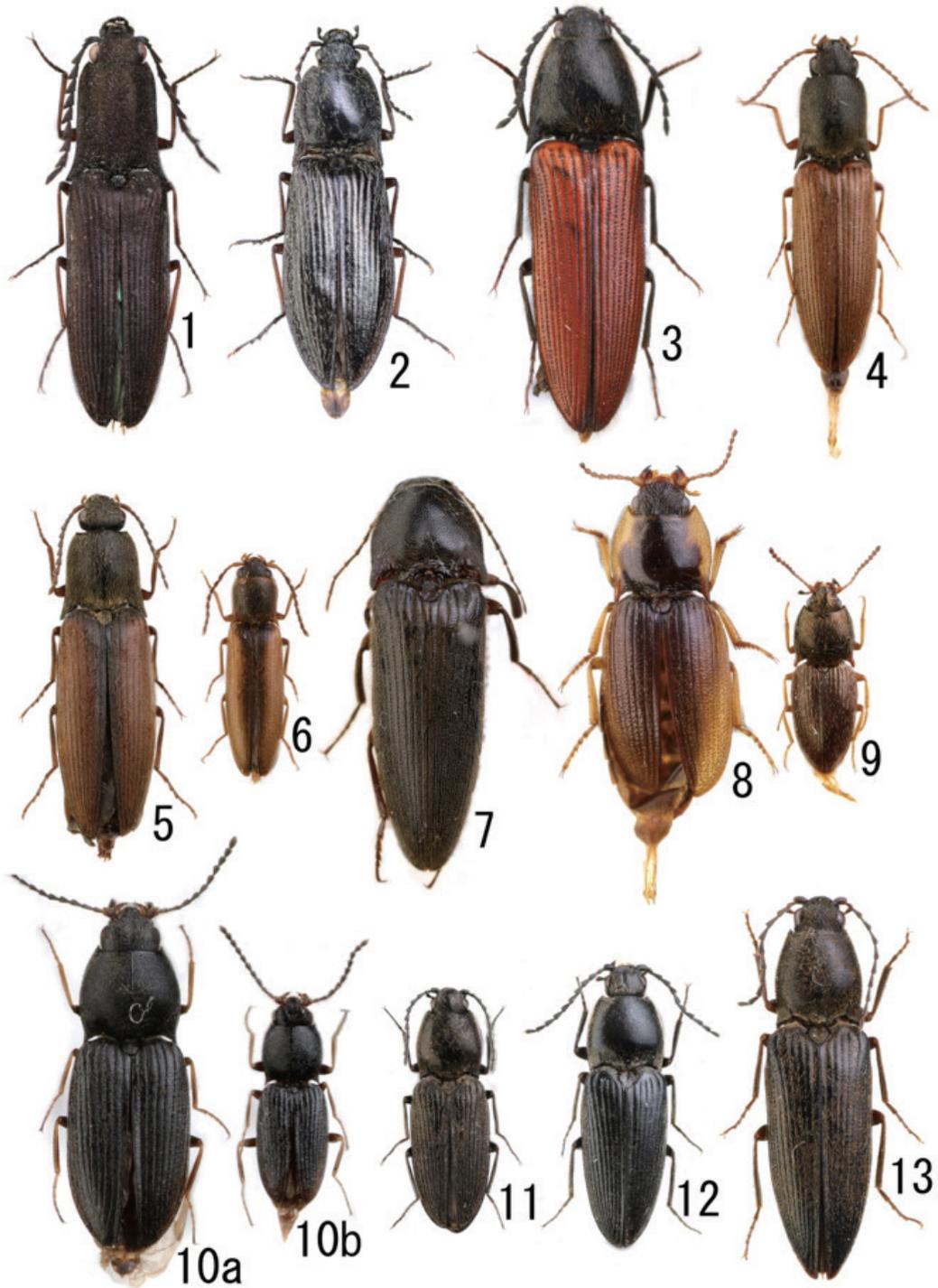


図1-13. 1. ドウガネヒラタコメツキ (♂, 体長 10.8 mm); 2. ミヤマコガネヒラタコメツキ (♀, 15 mm); 3. エゾオオアカコメツキ (♀, 11.6 mm); 4. カバイロコメツキ (♀, 10.4 mm); 5. オオカバイロコメツキ (♂ 11.5 mm); 6. エゾナカグロヒメコメツキ (♂, 6.3 mm); 7. クシコメツキ (♂, 18.3 mm); 8. キベリヒサゴコメツキ (♀, 10.2 mm); 9. アイヌチビヒサゴコメツキ (♀, 4.7 mm); 10a. イシダミズギワコメツキ (♀, 4.3 mm); 10b. 同 (♂, 2.6 mm); 11. エゾコハナコメツキ (♂, 6 mm); 12. クロハナコメツキ (♀, 7mm); 13. オオハナコメツキ (♀, 11.7 mm).

に運ばれて分布を拡大している種のように思われる。

調査標本：1♂，利尻富士町鬼脇 (alt. 50～250 m)，23-VI，吉田採集；1♀，仙法志，15-VII，佐藤採集。

2. *Denticollis nipponensis ainu* Kishii, 1987

アイヌベニコメツキ

原名亜種は本州から九州の各地の山林に広く分布しているが、北海道では個体数が少なく、本州産とは別亜種として扱われている。利尻島からは馬場・大平 (1978) が体長 8 mm の 1 ♀ を、大平・佐藤 (1996) が鴛泊 (6-7-VII-1989) から 1 ♂ を記録している。

調査標本：1 ♀，利尻町杓形，21-VI，吉田採集。

3. *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)

ドウガネヒラタコメツキ (図 1)

寒冷地系の種で、同属の種はロシア極東地域から中国やヒマラヤ山系にも分布している。日本では北海道から九州 (屋久島も含む) の各地の山林帯に分布しているが、北海道では個体が少なく、主に札幌市周辺や石狩山地、東部山岳地帯からの分布が知られている。離島では奥尻島から記録があるのみであるが、このたびの調査で利尻島にも分布することが判明した。

調査標本：1♂，鬼脇，23-VI，吉田採集。

4. *Mesotalesus (Mesotalesus) impressus sachaliensis* (Miwa, 1925)

ミヤマコガネヒラタコメツキ (図 2)

日本とその周縁地域に分布する種で、原名亜種はヨーロッパの山岳地帯からモンゴル地帯に分布し、日本産亜種は奈良県の大台原からの 1 例を除いて、中部山岳地帯から青森県、北海道の内陸地帯とその離島の奥尻島、利尻島、礼文島、国後島、択捉島やサハリンからも知られている。

利尻島からは Kishii(1962) や大平・佐藤(1996) が鴛泊から、山谷・草刈 (1996) が山谷採集の 1 個体を記録している。ここでは主として利尻山麓一

帯に分布、大平・保田 (2000) は針葉樹の葉上から見出しているが、右下に潜んでいる個体も採集している。

調査標本：1 ♀，利尻富士町鴛泊 (alt. 250 m)，24-VI，吉田採集。

5. *Ampedus (Ampedus) optabilis kusuii* Ôhira, 1989

エゾオオアカコメツキ (図 3)

北海道地域に分布する上翅が赤褐色をした大形の実麗種で、幼虫は針葉樹の朽ち木に入る。離島では奥尻島から記録されているが、利尻島からはこれが最初の記録と思われる。

調査標本：1♂1♀，利尻町杓形 (alt. 100～420 m)，21-VI，吉田採集；1♀，利尻富士町鴛泊 (alt. 250 m)，24-VI，吉田採集。

6. *Ectinus (Ectinus) sericeus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ (図 4)

北海道から九州の各地の雑木山林、牧草地や農耕地などに広く分布する種である。幼虫は土壤中に生息、農耕地では栽培植物の根茎に食い入り加害すると云われている。利尻島からは Kishii(1962) が最初に記録、他では礼文島、天売島、焼尻島、国後島、択捉島、色丹島などからも知られている。

調査標本：3♂5♀，鬼脇，21～23-VI，吉田採集；1♀，杓形，27-VI，佐藤採集。

7. *Ectinus dahuricus persimilis* (Lewis, 1894)

オオカバイロコメツキ (図 5)

G. Lewis(1894) が北海道のジュンサイから新種として記載した種であるが、大平 (1997) はサハリンやロシア極東地域に分布する種の亜種としている。利尻島からは Kishii(1962) が最初に記録、大平・楠井 (1975) が礼文島や海馬島から記録している。旧大陸では幼虫が前種と同様に栽培植物の根茎を加害する害虫とされている。

調査標本：1♂，利尻富士町鬼脇 (alt. 50～250 m)，23-VI，吉田採集。

8. *Dalopius ainu* Kishii, 1962

エゾナカグロヒメコメツキ (図6)

北海道とその周辺の離島にも分布が知られており、形態や分布の概要は大平(1989)も報告している。古くは北海道産は本州産の *D. patagiatus* (Lewis, 1894) と同種とされてきたが、Kishii(1962)は *D. patagiatus ainu* と新亜種名を付して記載した。しかし、Gurjeva(1979)は独立種としたので、現在では北海道産はこの学名で扱われており、利尻島産も北海道内陸産と同種と考えられるので、ここでは上記の学名で記録することにした。

調査標本：15♂ 10♀，利尻町杵形，21-VI，吉田採集。

9. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus* Candèze, 1860

クシコメツキ (図7)

北海道から九州の各地の雑木林や農耕地や牧草地などに広く分布する種で、北海道の周辺の天売島、焼尻島や奥尻島などからも記録がある。幼虫は土壌中に生息する円筒形状をした褐色の針金虫形で、往時は畑作物の根茎に喰い入る針金虫形状をした幼虫の代表種とされてきたが、飼育ではむしろ他の昆虫類などの幼虫や蛹などを捕食する種のように思われる。利尻島からは大平・佐藤(1996)が灯火に飛来した個体を記録している。

調査標本：1♂，仙法志，27-VI，佐藤採集。

10. *Hypnoidus littoralis convexus* (Miwa, 1928)

キベリヒサゴコメツキ (図8)

北海道やその周辺の離島の雑草などが生えている浜辺に分布する種で、その分布や生態の概要は大平(1963)が報告している。本亜種は北海道とその周辺に分布しているが、原名亜種はアラスカ地方からカムチャッカ半島を経てクリル列島に広く分布している。また、日本では別亜種 (*H. littoralis michinoku*) が青森県下北半島の風間村の海岸に分布している。

利尻島からは、Kishii(1962)が鴛泊で1個体(1-VIII-1958)を採集した記録があるのみであったが、

このたび吉田が鴛泊字本泊の海岸で見出した。成虫は後翅が退化していて、飛翔できないが、海岸沿いの砂浜などを活発に活動している。

調査標本：1♀，利尻富士町本泊，20-VI，吉田採集。

11. *Hypnoidus rivalis ainu* Ôhira et Yasuda, 1994

アイヌチビヒサゴコメツキ (図9)

G. Lewisが最初に青森県岩木山の山頂部で2頭採集し、新種として記載した体長4mm内外の種である。現在では北海道産は本州産の亜種とされている。利尻島からは大平・保田(1994)が利尻山の標高600mあたりから山頂部にかけて分布しているとしている。このたびの調査では、吉田が利尻町杵形と利尻富士町(alt. 100~420m)で落葉ふるいやトラップで見いだしている。本種は後翅が短小化していて飛翔はできない。

本州産と北海道産は類似していて、外形のみでの識別は簡単ではないが、大場ほか(2015)によるDNA解析では、両地域間では明らかな差が見られるので、この亜種の位置付けは妥当と思われる。

調査標本：10♂ 5♀，利尻町杵形(alt. 100~420m)，21~22-VI，吉田採集；4♂ 2♀，利尻富士町鬼脇(alt. 170m)，23-VI，吉田採集。

12. *Fleutiauxellus ishidae* Kishii, 1976

イシダミズギワコメツキ (図10a, 10b)

体長2.5~4.5mm内外で黒色、触角と肢は暗黄褐色。前胸背板は密に点刻を印し一見アバタ状、正中部には細い縦隆起を生じる。また、上翅の条線は深く明瞭に印する。

本種は最初に大雪山麓の松山温泉で見出された個体に基づいてKishii(1976)が新種として記載した種であるが、利尻島からはこれが最初の記録である。本種は微小種で、通常は地表の落葉層中に生息しているので、トラップ採集以外では見出しにくいために記録の少ない種となっている。このたび吉田は、鬼脇の豊仙沢川の砂地上での活動個体や周辺の落葉層を集めてのベルレーゼ法で多くの個体を見出した。

調査標本：14♂ 17♀，利尻富士町鬼脇 (alt. 250 m)，23-VI，吉田採集。

13. *Paracardiophorus pullatus yasudai* Ôhira, 1986

エゾコハナコメツキ (図 11)

本州に分布する種の北海道産亜種である。北海道内陸には広く分布しているが、個体数は多くなく、離島では国後島と奥尻島が知られているのみである。利尻島からはこれが最初の記録と思われる。

調査標本：14♂ 17♀，利尻富士町鬼脇 (alt. 250 m)，23-VI，吉田採集。

14. *Cardiophorus pinguis* Lewis, 1894

クロハナコメツキ (図 12)

体長は 7 mm 内外，体は黒色で光沢を有する。一般外形は前種に類似しているが，前胸背板の側縁と前胸腹側板との会合線が融合，会合線が失われているので識別できる。北海道から九州の各地に広く分布している種である。

調査標本：1♀，利尻富士町鬼脇，23-VI，吉田採集。

15. *Playmychus nothus* Candèze, 1865

オオハナコメツキ (図 13)

北海道から九州の各地に分布する種であるが，北海道では個体数は少なく，渡島半島から札幌付近，上川町と東部地域に分布記録が偏っているのは不思議である。幼虫は砂壤土質の土中に生息しているので，本州あたりから植物の根株や土壌などと共に人為的に入ってきた種の可能性もある。離島では奥尻島からの記録があるのみである。利尻島からはこれが最初の記録と思われる。

調査標本：1♀，利尻富士町鬼脇，23-VI，吉田採集。

引用・参考文献

馬場金太郎・大平仁夫，1978. 利尻島及び稚内周

辺のコメツキムシについて. 越佐昆虫同好会会報, (48): 42-47.

Gurjeva, E. L., 1979. Fauna of USSR, 12(4): 352, f. 613.

Kishii, T., 1962. Elateridae of Islands of Rishiri-to and Todo-jima. The Snappers of Islands (III). *Bull. Heian High School, Kyoto*, (7): 1-31, 4 plates.

Kishii, T., 1976. New Negastriinae with Some Notes. "Some New Forms of Elateridae" in Japan (X). *Bull. Heian High School, Kyoto*, (20): 17-45, 6 plates, 1 map.

Kishii, T., 1999. A Check-list of the Family Elateridae from Japan (Coleoptera): *Bull. Heian High School, Kyoto*, (42): 1-148.

Oba Y., H. Ôhira, Y. Murase, A. Moriyama & Y. Kumazawa, 2015. DNA Barcoding of Japanese Click Beetles (Coleoptera, Elateridae). *Plos ONE*, Doi; 10, 1371. Pone 0116612.

大平仁夫，1963. キベリマルヒサゴコメツキについて. 昆虫, 31(2): 79-82.

大平仁夫，1989. 日本産 *Dalopius* 属のコメツキムシについて. 越佐昆虫同好会報, (68): 59-79.

大平仁夫，1997. 日本産コハナコメツキとその近似種について (甲虫目: コメツキムシ科). 比和科学博物館研究報告, (35): 1-16, 14 plates.

大平仁夫・楠井善久，1975. 北海道稚内市付近のコメツキムシ若干種について. 昆虫と自然, 10(7): 23-25.

大平仁夫・佐藤雅彦，1996. 利尻・礼文島のコメツキムシの記録 (2). 利尻研究, (15): 9-12.

大平仁夫・保田信記，1994. 北海道産チビヒサゴコメツキについて. 層雲峡博物館研究報告, (14): 1-7, 5 plates.

山谷文仁・草刈広一，1996. 上杉博物館館蔵昆虫目録 (59). ファウナウキタム, (52): 415-424.